

2025年に向けた対応方針の更新について

資料 1

2025年に向けた対応方針

作成日	2023年 9月 25日						
医療機関名称	亀田森の里病院		開設者	医療法人鉄蕉会			
所在地	神奈川県厚木市森の里3-1-1						
医療機関の現状							
病床種別		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
	許可病床数	62床					62床
	稼働病床数	60床					60床
病床機能 (2023年9月)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計
	許可病床数		32床	30床			62床
	稼働病床数		30床	30床			60床
診療科目	整形外科、外科、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、総合診療科、皮膚科、麻酔科						
職員数	医師：5人、看護職員：50人、医療技術職：37人、事務職：19人、 <i>※原則として常勤は実数、非常勤は常勤換算で、合計数を記載してください。</i>						
指定・届出等の 状況 (指定を受けて いるもの、届出 をしているもの に○)	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア 病棟(病床)	回復期リハビリ テーション病棟	在宅療養支援 病院	在宅療養後方 支援病院	
	○ 告示・輪番	(床)	○ (30床)	(床)	○		
自院の特徴、得意分野、特筆すべき事項等	平成28年度に回復期病床転換施設整備補助を受け、急性期病床62床の病棟を急性期病棟32床と地域包括ケア病棟30床に新設編成した。地域の病院、診療所と比べると十分ではないと認識しつつも、体制を整えてできる範囲の中でコロナ禍においても、発熱外来の設置、入院患者の受入れにも対応してきた。今後も近隣開業医・施設等との連携も行い、地域包括ケアシステムの中の一員として、地域医療に貢献している。						
課題等	経営資源が十分でない中で、コロナ禍に向き合ってきたことで、医療従事者・職員に疲弊があることは否めない。結果として、訪問診療の機能については、縮小している。さらに、2024年度から始まる医師の働き方改革への対応も大変ハードルが高く、医師の確保は中長期的な課題となっている。						
2025年に向けた方針							
病床機能 (2025年予定)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護施設等	計
			60床				60床
今後地域で担う役割等	地域包括ケアシステムの中で、整形外科疾患や在宅患者の軽症急性期入院医療と、高度急性期治療後の在宅復帰支援入院医療を併せ持つ、小回りの利く入院機能を担っていききたい。さらに併設している訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を図り、サポートが必要な地域の在宅患者さまに対して十分な医療・看護提供を行うなど地域医療に貢献していきたい。						

病床機能の変更(増床・減床を含む)を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	<p>急性期機能32床(うち2床休床中)、回復期機能(30床)の、2つの病棟、2つの病床機能を有してきたが、関東信越厚生局に届出することにより、2023年11月1日から、1つの病棟として再編成し、その病床機能は回復期機能を予定する。</p> <p>一時的に医師が減員し十分に役割を果たせていないものの、診療報酬(入院料等)については、救急・急性期治療も行える急性期一般入院基本料を60床としたうえで、そのうちの30床については回復期病床転換施設整備補助を受けながら取り組んできた地域包括ケアの機能を継続するために、地域包括ケア入院医療管理料とする。</p> <p>主な理由としては、以下の2点。</p> <p>1) 医療従事者の人員効率を上げるための、病棟の一体的運用 2) 従来地域から期待されてきた役割の維持継続と充実</p> <p>なお、許可病床としては62床(2025年予定の病床機能としては60床と記載)を有しているが、休床中の2床については、十分な医療従事者と患者数を確保できた時点で、関東信越厚生局のご指導を仰ぎながら、再開を目指す予定(病床機能は回復期機能とし、変更しない)。</p>		
診療科や、その他の機能の変更、見直し等を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	<p>特になし</p>		
その他・自由記載欄			
数値目標等			
項目	現状(2018年)	目標(2018年～)	※病棟ごとに大きく異なる場合は、病棟ごとに記載
病床稼働率	73%	90%	
手術室稼働率	***		
紹介率	12%		
逆紹介率	***		
他医療機関・介護施設等との連携について			
主な受入元(医療機関・施設名)	東海大学医学部附属病院、厚木市立病院、東名厚木病院		
主な退院先(医療機関名・施設名)	厚木市内老人保健施設		
特に力を入れている疾患等	整形外科疾患、在宅復帰支援が必要な患者等。		
入院不可・対応不可の疾患等	特になし		
連携に関する要望や課題認識等	特になし		